

北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会 議事概要

場所：北陸地方整備局、富山河川国道（2会場でテレビ会議）

日時：平成26年10月3日（金） 15:00～17:00

<議事概要（※資料説明の他、主な意見等）>

1. 座長挨拶

- ・建設業界の課題は、若者が建設業界に興味がない、一度建設業に就職しても離職率が高いということ。
- ・建設業に従事する人は、建設投資H9～10年がピークだがその当時の従事者の半数以下となっている。建設企業数も年々減少している。
- ・北陸地域の社会資本整備や管理、地域の信頼に応えるためには、技術者・技能者が建設界に入職してもらうことが重要。
- ・若者が建設界に胸を張って入職してもらうには建設界が魅力あるものだと学生に理解してもらう必要がある。また、学生だけではなく、その予備群である中学、小学生、父兄、地域のみなさんに建設界の魅力を理解してもらう必要がある。
- ・若者が建設界に魅力を感じる要素とは、以下の3つ。
 - ①「誇り」 例えば、越後平野が一大穀倉地帯に変貌したのも大河津分水路の社会整備があったから。上越新幹線、北陸自動車道、磐越道、北陸新幹線の社会整備によってどれだけ地域が変わったのかということ。これらを担ってきたのは建設界である。
 - ②「頼もしさ」 現場で働く頼もしいお父さん。
 - ③「楽しさ」 手足を動かして働く楽しさ。
- ・若者が建設業界に入職してもらうには、以下の2つを向上させる事が重要
 - ①建設界の将来性
 - ②建設界における従事者の処遇、
- ・産学官が三位一体となって協力し合い若者に入職してもらい、そして色々な工夫をして離職率を下げ、魅力的な建設界で誇りをもって活躍してもらう構造を作り上げていくことが必要。

2. 建設界をとりまく情勢について<資料3>

事務局より資料説明。

3. 担い手確保に向けた既往の取り組み及び今後の予定について<資料4、5>

- ・各機関・団体より、資料説明。
(その他、石川県測量設計業協会より)
- ・現在、測量士育成機関は全国で2校あり、私が業界に入った頃は全国で8校あった。
- ・ピーク時の1980年には4000人いたが、現状残っている測量士は15%の約600人程度。
- ・北陸でも北陸測量専門学校（小矢部）があったが、それも無くなった。測量業界を背負

っていく人材に危機感を持っている。

4. 学生等が建設界に求める情報（ニーズ）について<資料6>

- ・長岡技術科学大学（細山田教授）、富山大学（堀田工学部長）、富山県立大学（手計准教授）、石川高専（三ツ木教授）などより資料説明。

※概要は【別紙1】にて整理

（他、石川高専 三ツ木教授より）

- ・2年間就職を担当して感じていることは、建設業界はけっして嫌われていないと感じる。
- ・3. 11の災害以降に学生たちが関心を寄せている。
- ・今は就職状況が良いが以前は氷河期もあり、平準化が必要。
- ・卒業生から朝方の3、4時迄働いている先輩の姿をみると辞めたくなるとの声も聞いており、業務の平準化が大きな問題と感じている。
- ・インターンシップに関しては、受入れにかなり力を入れて頂き、ありがたい。

5. 今後の取組方針（案）<資料7>

- ・事務局より資料説明。

6. 学生に伝わるコンテンツ（案）について<資料8>

- ・事務局より資料説明。

7. 今後の進め方<資料9>

- ・事務局より資料説明。

（他、座長より）

- ・協議会において、産学官が連携し、取組みがより発展することが一番重要なポイント。
- ・活動が長期に渡るため、PDCA（行ったことを評価し、次年度に繋げる活動）が重要。

8. その他意見

（富山県立大学 手計准教授）

- ・取り組み資料7、8には、若い人にどうPRするのかの取り組み方針が提案されているが、企業における給料を上げるなど、現実的な問題の対応方針が無いと感じるが、国や自治体において、人件費を上げる仕組み等の検討はどうするのか？

（回答：座長）

- ・建設業の魅力だけは改善にならない。もっとリアルな目で見られており、現実的な問題がある。問題の1つは建設業の処遇（職場環境、給料など）、あとは建設業の将来性である。
- ・給料の問題については、<資料3>P12, 13（労務単価関係）を説明
- ・労働環境の問題も改善する必要がある、特に就労時間が長いという企業の実態について意見もあったが、様々な原因の一つに発注者が関与する場合もあり、責任をもって低減していく取組みを行っていく。

・これらの問題自体は、直接協議会で議論しないが、しっかりと取り組んでいくもの。

(回答：新潟労働局 石原部長)

- ・職場環境の改善については、厚生労働省でも雇用管理改善を進めている。
- ・賃金改善、休日確保、社会保障など、雇用改善を進めるべく9月に関係団体等を回り、ヒアリングを行ったところ。
- ・企業の方々はこの問題は分かっているが、建設業には、元請け・下請け・孫請けがあり、やりたくてもできない状況もあり、全体としてやっていかないと改善しない。

(富山大学：堀田工学部長)

- ・建設業界の方々が、工業高校、大学生、大学院の卒業生に対してどのようなスキル、知識を求めているかの情報交換することで、各機関がどのような人材育成をしていくか大学側へもフィードバックできる。そのような情報交換を今後も取り組んで頂きたい。
- ・富山大学も建設系の学科を作ることも考えている。既存の大学との棲み分けもなども考えていく必要があり、どういう所に注力した人材育成をしていくか情報収集しているので、このような情報交換を進めて頂きたい。
- ・また、地方大学なので、地方の建設界に多く人材を輩出して、地域の活性化につながる人材育成をしていく必要があると考えている。

(回答：座長)

- ・各業界、地域毎に求めている情報の性質が異なり、今後県部会の中で議論して頂きたい。

－以上－

学生等が建設界に求める情報(ニーズ)

※北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会における教育機関からの意見

講義・授業での協力

○より現場に近い経験、知識を学生に

- ・学生は、建設界の実態を知らない。(新潟大学)
- ・建設系の求人が増え、会社説明会へ出席を促している。(新潟大学)
- ・大学での授業科目に、現実の土木のイメージを与えるために、何等か関与していただくと助かる。(長岡科学技術大学)
- ・日本技術者教育認定機構(JABEE)では「エンジニアリングデザイン」の必要性が求められているが、このような分野は、行政・企業の協力が無いと大学単独では難しい。実務に取り組むことにより建設界への関心をもつのではないか。(長岡科学技術大学)
- ・共同研究を実施することにより、現場に近い経験を学生がすることができる。(金沢大学)
- ・授業で職務の紹介をしてほしい。(石川工業高等専門学校)

○学校教育における先端技術等の提供、協力

- ・授業では、近年の技術開発に学校の現場がついていけない。特に、測量、積算など。(新発田南高校)
- ・ものづくりの総合力を身につける「ものづくり学」を実施。地元企業の専門技術者を講師に招き、先端技術や企業の取り組みを学ぶ。講師に土木系が登録されていないのでお願いしたい。(富山工業高校)

現場見学、体験学習

- ・現場見学は、建設現場に限らず維持管理で大変な場所や運用して役立っている場所も良い。(新潟大学)
- ・現場見学会は、実施者の都合で日程を決めることが多く、講義日程が合わないと参加できない。(富山県立大学)
- ・現場見学会は、単なる見学ではなく、大学で学習している内容とリンクした事前の技術説明、解説が欲しい。(金沢大学)
- ・現場見学、体験実習の場を提供してほしい。(石川工業高等専門学校)
- ・現場見学会は、可能であれば、進捗状況や現場見学の受け入れ確認できるサイトがあると、見学時期などの計画が立てやすい。(新発田南高校)

インターンシップ

- ・インターンシップは、学生個人の適性、職場経験する貴重な場面であり、短期間でなく長期間や複数箇所の体験が良い。(新潟大学)
- ・インターンシップは選択科目だが、学生たちのニーズが高い。(富山県立大学)
- ・インターンシップは、基本は1回だが、複数の業種で受けたいとの希望が多い。(金沢大学)
- ・インターンシップは、採用が増えているためか、受け入れ数が増えているようだ。(石川工業高等専門学校)
- ・インターンシップを契機に求人をいただく等、一定の効果あり。(新発田南高校)

土木系学生確保のためのサポート

- ・1～2年生の段階で建設界への理解を深める。(新潟大学)
- ・進学振り分け(1年入学時は専門が決まっていない)時に、官、産のサポートがあると良い。(長岡技術科学大学)

その他

- ・継続的で安定的な採用数の確保
- ・勤務環境、労働環境の改善